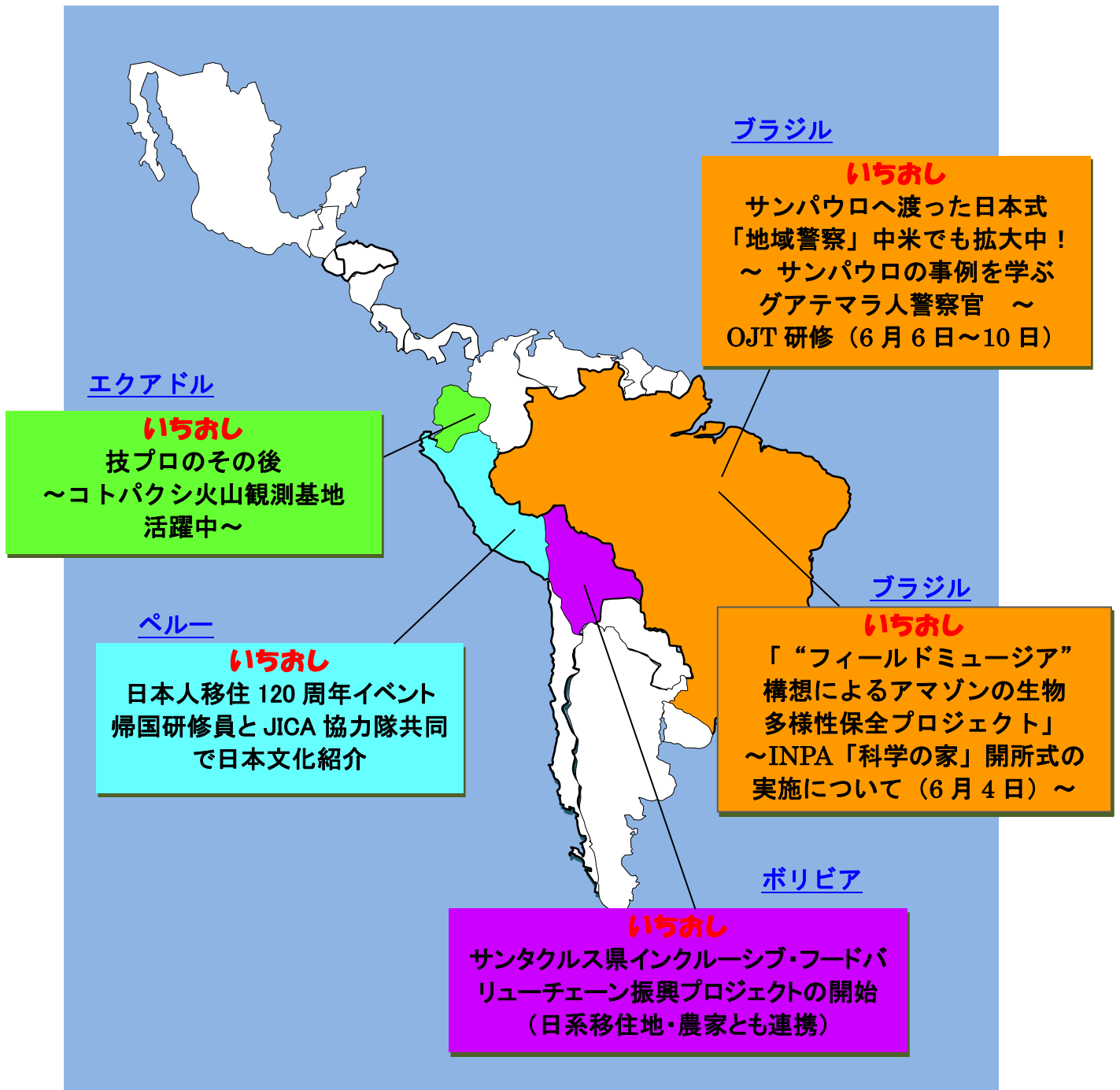




JICA いちおし 6月号

(2019年6月3日発行)



* 国名にはリンクを張っております。あわせてご確認ください。

技プロのその後
～コトパクシ火山観測基地活躍中～

2004年から2009年にかけて実施された「火山監視能力強化」技術協力プロジェクトで設置された観測基地の一つを訪問する機会がありました。コトパクシ火山(5,897m)は、富士山に似たエクアドルで有名な火山の一つで、今回訪問したのは、5箇所に設置された観測基地の一つで、標高3,800mに位置します。

2015年8月のコトパクシ火山噴火時には、これらの観測地点からの観測データを基に警戒情報が発信され、コトパクシ山への観光客の入山も禁止され、観光客への被害を未然に防ぐことができました。

プロジェクトが終了して長い年月が経ちますが、火山活動、火山泥流、地震活動、関連基地からのデータ送信の中継地点として今も活躍しています。火山観測地点の常として、落雷や厳しい自然条件により機材の故障も相次ぐそうですが、プロジェクトのカウンターパートだった地球物理学研究所は、機器の維持管理を怠らず、技術者による修理を重ね、丁寧に機材を活用している状況も確認できました。



コトパクシ山 (出典:Wikipedia)



観測基地全体



地面に埋め込まれたケースの中に設置されている機材

エクアドル事務所の情報はこちらから↓

<https://www.jica.go.jp/ecuador/>

<https://www.facebook.com/JICA-Ecuador-1449678225354548/>

日本人移住 120 周年イベント 帰国研修員と JICA 協力隊共同で日本文化紹介

6月24日(日)と25日(月)にペルーイカ州イカ市において、日本人移住120周年イベントの一環として、日本文化紹介イベントが開催されます。このイベントは、APEBEJA(これまでJICAの研修に参加したことのある帰国研修員たちの集まり)が中心となり、ペルーの地方から開催場所を選び、日本文化紹介や日本での研修の成果などをその地域の一般市民に対して実施しています。今年は、日本人移住120周年ということもあり、より多くの人に参加してもらうため、JICA海外協力隊の配属先でもあるイカ州立博物館で実施することが決まりました。1日目の24日(日)は、朝9時から17時まで、日本文化紹介として、書道や折り紙、茶道、豆つかみ、空手、浴衣、移住史料館の展示など、JICA海外協力隊と一緒に地域の人たちが広く参加できるように無料で実施されます。25日(月)は同じ博物館で、朝9時から13時まで環境保全に関するフォーラムを実施し、帰国研修員とJICA海外協力隊がプレゼンテーションをする予定です。

写真は今年1月にピウラ市で同様のイベントを実施したときのものです。約250名の一般市民が参加しました。



ボリビア

いちおし!

サンタクルス県インクルーシブ・フードバリューチェーン振興プロジェクトの開始 (日系移住地・農家とも連携)

ボリビア東部のサンタクルス県において、農畜産物のフードバリューチェーンの振興を図る、新規技術協力プロジェクトが開始されます。6月中旬には2名の専門家(チーフアドバイザー、市場志向型農業/業務調整)が着任予定、7月には県主催によるプロジェクトのオープニング・セレモニーを実施予定です。

サンタクルス県は国内で最も農業・畜産業が盛んな県(国内農業生産量の74%)です。これまで、同県内の日系移住地(サンファン、オキナワ)を中心に、継続的な協力を行ってきており、畜産(肉・乳)、稲作、果樹などにおいて成果を上げてきました。しかしながら、不安定な生産基盤、非効率な流通システム、販路・市場情報の不足などの課題を抱えています。そのため、同県の農畜産物は十分な競争力を持たず、国内市場では外国産品が大量に流通しています。また、従来の政策や同地域への支援では、生産能力強化に重点が置かれ、生産から加工・流通・販売・消費までを視野に入れたフードバリューチェーンの振興への本格的な支援は実施されてきませんでした。

市場のニーズを反映した付加価値の高い農畜産物の生産から消費までをつなぐノウハウが求められていることから、本プロジェクトでは、フードバリューチェーンの関係者の中でも利益を得にくい生産者や、適切な情報を得にくい消費者らも巻き込んでインクルーシブなフードバリューチェーンの振興をはかることで、国内外市場におけるサンタクルス県の農畜産物の競争力向上を目指します。



サンタクルス市内
減農薬野菜販売会風景



バジェグランデ市内の
果物市場



養蜂由来製品

【ボリビア社会ネタコラム】

ボリビア選挙戦がスタート:5月27日に大統領選挙、国会議員(上院・下院)選挙公示がなされた。10月20日の投票日に向けた選挙戦の幕が開けた。大統領選挙では、3選を目指す現職のエボ・モラレス大統領を Comunidad Ciudadana 党のカルロス・メサ元大統領が追う形となっている。また、国会議員選挙では、与党 MAS 党が現有勢力(両院とも定数2/3以上)を維持できるかが焦点となっている。

[表紙へ](#)

ブラジル

いちおし!

「フィールドミュージア」構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」 ～INPA「科学の家」開所式の実施について(6月4日)～

国際協力機構(JICA)ブラジル事務所(所長:佐藤洋史)が、京都大学野生動物研究センター(WRC)とブラジル国立アマゾン研究所(INPA)と実施している、「フィールドミュージア」構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」では、2014年7月よりマナウス周辺の森林保護区で生物多様性に関する調査を実施してきましたが、今般その調査結果をマナウス市民に還元するために、日伯研究者の協力のもと、INPAの既存の施設である「科学の家」の展示内容をリニューアルしました。INPAに蓄積された知識・資料に加えて、プロジェクトの研究成果(たとえば、ピラルクの鱗から全長・年齢を測定する方法、「科学の森」に住むサルの食性、ナマケモノの心拍データ等)をも展示することで、「科学の家」がさらに魅力的な環境教育施設になりました。開所式にぜひご参加ください。

いちおし!

サンパウロへ渡った日本式「地域警察」中米でも拡大中! ～ サンパウロの事例を学ぶグアテマラ人警察官 ～ OJT研修(6月6日～10日)

JICAは過去20年近く、ブラジルに対して日本式「地域警察」の技術移転を行ってきました。治安改善や住民からの信頼回復など、多くの成果をあげてきたサンパウロ州警察は、これまでの経験とノウハウをノーザンライアングルと呼ばれ、ブラジル同様に深刻な治安問題を抱える中米3カ国(グアテマラ、エル・サルバドル、ホンジュラス)に対して共有し、市民安全の分野で貢献をしています。

開発途上国の中で、ある分野において開発の進んだ国が、別の途上国を支援する協力形態を三角協力と呼び、グアテマラはJICAが実施するブラジルとの三角協力の中でも大きな成果を残している代表的な国です。2016年のプロジェクト開始から、これまで7回のブラジル研修を行い、80名のグアテマラ人警察官を派遣してきました。プロジェクト期間最後の今回の研修(2019年6月6日～10日迄)には過去最大の20名が参加予定で、日本からブラジル、ブラジルから中米へ輸出される日本の技術協力を間近に見ることができる絶好の機会です。

[表紙へ](#)

以上